

春合宿：穂高岳 涸沢定着

- ◆日程 2017年5月3日(水)～5月6日(土)
- ◆メンバー L：須田、河野、富田、池本



リーダー総括

3年続けて涸沢定着、穂高で行った。初年度は前穂で事故、登れず1名のみ奥穂に登頂した。2年目は奥穂が事故で登れず北穂のみ4名が登頂した。そして3年目の今回の合宿は、まさに3度目の正直で北穂と奥穂の2つを3名で登頂することができた。

3年続けて穂高に挑んだ感想としては、率直に言ってこの時期の穂高は事故が多くということだ。人気のあるルートだから登山者はとても多く、技術レベルが低い人も多く登っている。だから今年も奥穂・前穂で滑落による死亡事故が発生した。

今回我々が奥穂の頂上から下って来るとき、急勾配の雪壁に差し掛かった。新人会員の安全を確保するために残置支点を使ってロープで確保したり、スタンディングアックスビレイでの確保を行った。そのため下降到幾分時間が掛かったが、全く不安を感じることなく安全に危険箇所を通過することができた。

しかしながら他のパーティーを見ると同じ危険箇所でもロープ1本に5～6人が数珠繋ぎになって同時登攀を行っており、もし一人が滑落したら全員引きずられて滑落していくのは火を見るよりも明らかである。また今回好天が続く、気温も高かったため雪崩が頻発していた。

北穂に登頂後、半分ほど下降した辺りで上方から雪崩が発生した。雪崩の通り道を避けて下降していたため瞬時に安全だと判断して動かないように指示したが、実際10mも離れていなかった。雪崩の勢いはすさまじく、もし巻き込まれていたら命の危険があっただろう。これ程近くで雪崩に遭遇したのは初めてだったが、改めて雪崩の怖さを思い知らされた。

登下降ともに最も安全なルートを選んで行動したつもりだが、雪崩に関しては100%安全ということはありません。ビーコンを装着してプローブ、スコップを携帯するのは当然として、その使用方法に習熟していることが大切だ。

最後に今回の合宿には新人2名が参加し、1名は北穂・奥穂に登頂することができた。もう1名は涸沢でテントキーパーであったが、初テント泊、初雪山で春の涸沢に来られたことはとても良い経験になったと思う。この経験を今後の山行に活かして頂きたい。

5月3日(土) 天候：晴れ

松本駅から電車とバスを乗り継いで上高地に着くと、すでに登山客でかなり賑わっていました。少し歩いた所にある河童橋で記念撮影をして出発。猿に会ったり、ふきのとうを発見したり、自然を感じながら歩くこと2時間で徳沢に到着し須田さんと合流。そこから透明度の高いきれいな梓川の辺りを歩いて横尾へ。横尾までは雪もなくほぼ平坦な道でした。

まるで海外のような絶景の中、くだらない会話で盛り上がりテンション高く横尾大橋を渡っていくと残雪がちらほら出現。道も細かいアップダウンになり、気付いた時には完全に雪山になっていました。

後半はひたすら坂道を登りようやく涸沢に到着。アイゼンはなしで登れました。涸沢には色とりどりのテントがたくさん張っており、白い雪の上に映えていました。見上げると積雪の穂高連峰が美しく、登山者を魅了していました。(池本)

CT：上高地 7:00-徳沢 9:00-横尾 10:00-涸沢 15:00

5月4日(日) 天候：晴れ 北穂高岳登頂

5時起床、周囲の登山者の声で目が覚めた。昨夜は20時就寝、真夜中過ぎには一度目が覚め5時間ぐらいの睡眠である。そのあとはなかなか寝付けなかった。今回シュラフカバーの買いたてを薄い寝袋とセットで使ったのだが背中の方がうすら寒かった。

初日天気は申し分なし、嗜好品は各自好きなものを飲み、私はコーヒーを頂き朝食のうどんを済ませ出発の準備にかかる、3点セットをもち新人の池本さんにテントキーパーをお願いして北穂高岳目指して須田、富田、河野の順で出発する、

北穂沢には登山者が列をなして登っている、斜面の雪は気温が高いので多少ぐずぐずの状態になってはいる。1ピッチ1時間のペースで2回ほど休憩を岩場横でとる、雪崩を考慮して安全な所を選んでの行動なのだ。

休憩をしながらバリエーションの東稜に視線をやるとゴジラの背で順番待ちで並んでいるのがわかる、沢の左斜面は雪崩した跡がある、登山者も様々な人がおり、初心者、年配者、ヘルメットを着用していないもの、若者の男女と色々である。(さすが人気No.1の穂高だ！)

登りの半分上のあたりから須田君、富田君には先にいってもらい、私は後から追いかける感じで登る、気温が上昇してくるので体温調節のためTシャツできめる、登りルートが左が下りに自然となり数珠つなぎで下りる人を横目で見ているときに1人の男性が転落するのを目撃する20m位転落して止まったがそのままあと2mも止まらなかったら登りの登山者にぶつかる場所であった。見



ている方もひやりとした。後、登りで中年の女性が一人で空身で登っていたので頂上までいくのかと気になり声をかけたら 1 時間登って降りてきますといわれてピークハントでわありませんとのこと、話を聞くと東京のシャモニッククラブですと言われ前々日、屏風岩の雲稜ルートを登ったと聞き少しびっくりして、雪が多いので岩小屋へ引き返したそうだ。そこそこ岩をやる会のようなだと話を聞いて思った。

北穂高岳の頂上を踏んで北穂高山荘で休憩している。須田リーダーと富田君と合流、360 度のパノラマを満喫して行動食を食べてから頂上で 3 人の記念写真を撮り下山する。

下山の途中だが上から見て左側上部岩肌のすぐ下あたりから点発生表層雪崩が起きた。上部にいた登山者の「雪崩だぞ」の声で上部を振り返ると雪崩が迫ってきた、咄嗟に走路より離れようと逃げた直ぐもう一度上部を見たら走路から離れていた(約 7m)ので安心したが、最初はやばいと思って寒気がした、登山を始めてこんなに近くで見たのは初体験である。何時間か前に東稜がわからぬとも大声を聞いた。

無事テントに帰り時間があるので潤沢小屋横の下部で雪上訓練を須田リーダーのもと 2 人にやらせてもらう。訓練最中にもヘリが 2 回テント場近くにホバーリングで人の上げ下ろしをおこなっていた。今日 1 日を無事終了して有意義な 1 日となった。お疲れ様でした。(河野)



CT : :20 発→北穂沢→北穂高岳 (10:52, 11:30) 下山開始→潤沢テント場
13:2013:40~15:00 訓練

5月5日(日) 天候：晴れ 奥穂高岳登頂

春合宿 3 日目は奥穂高岳へ登る。河野さんは 30 分だけ早く出発して途中で落ち合うこととした。須田さんと私は 6:30 に出発。天気は晴れで最高の天気であったが登りは雪質がぐじゃぐじゃで歩きづらい。日がじりじりと照り付ける中、黙々と歩いていた。前日、北穂高岳からの下山時に目前で雪崩が発生。今回もまた雪崩に遭遇しないよう周囲に気を配りながら歩いた。ライチョウでも見られたら良いなと思いながら。



9:00 頃穂高山荘前で河野さんと合流した。今まで暑かったのが嘘のように急に寒くなったのでダウンジャケット、手袋、ミトンを着る。いよいよ面白い場面になった。梯子を登り、鎖場へ続く。梯子、鎖ともしっかりして安心感があった。その後、岩場がありがちりと岩を掴みたかったがミトンだと岩を掴みづらかった。岩場から氷壁が見えた。まさかここをピッケルとアイゼンで登るとは想像してなかった。先頭の須田さんがピッケルとアイゼンの使い方

を教えて下さる。須田さんに言われた通りにピッケル、アイゼンを氷壁に打ち込み登る。以外と登り易く、安心感があった。危険箇所を無事通過して少し登るとついに奥穂高岳山頂に辿り着いた。憧れの奥穂高岳に3人で登頂出来たことが本当に嬉しかった。

少し休憩して今度は下山。下りの危険箇所氷壁をまず初めに河野さんがロープなしでピッケルとアイゼンで下る。次に私の番。但し、須田さんが上からロープで私を繋いで安全確保してください氷壁を下る。上にいる須田さんと下にいる河野さん、大先輩達2人に前後で完全に守ってもらっている。また河野さんが下から後何メートルを大きな声で教えてくれるのも分かり易く有難かった。最後に須田さんがロープ無しでアイゼン、ピッケルで下る。無事危険所を通過してあとは雪道を下るのみであった。

無事に下山後、テントキープして頂いていた池本さんが「私3人の登頂を確認した」と言っていた。涸沢から山頂にいる3人を確認するのは難しい。良く聞くと涸沢でとなりのテントにいた人も奥穂高へ登っており途中すれ違っていた。赤いヘルメットの3人が登頂するのを見ましたと言ったとのこと。

その日の夜のテント内で河野さんからみんなにプレゼントがあった。みんなで来れたお祝いに奥穂岳山荘でイワナの甘露煮を買って下さっていた。ビールに合う最高に美味しいイワナであった。(富田)

CT：涸沢出発6：30ー穂高岳山荘9：00ー奥穂高山頂12：40ー下山：14：20

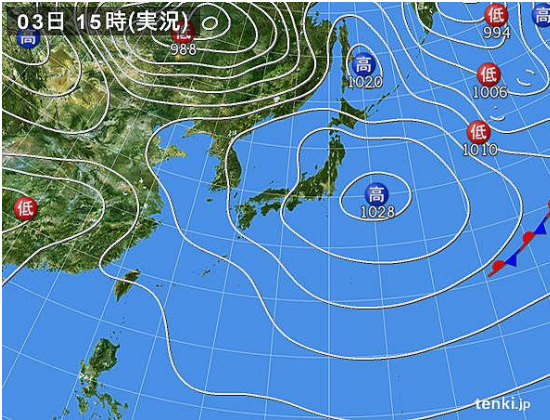
5月6日(日) 天候：雨

夜間から風が吹き始め、朝は山頂が雲に覆われていました。テントを撤収した直後に雨がパラパラ降り始め、レインウェアを着て下山開始。雪は柔らかく足首まで埋もれながら一気に下り、屏風岩が見える頃には雪は消えて雨が本降りでした。その後も上高地まで雨に降られ続けましたが、横尾で遭遇した雷鳥似の鳥や、徳沢のソフトクリームに元気づけられ無事に上高地に到着しました。今回、たくさんご指導くださった須田さん、河野さん、山頂の動画や写真を撮ってきてくれた富田さん、本当にありがとうございました。いつかは私も山頂を目指したいと思います。(池本)

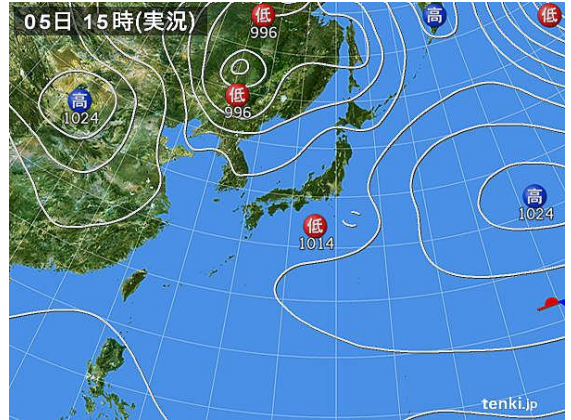
CT：涸沢6：30ー横尾7：50ー徳沢8：40ー明神9：30ー上高地10：3



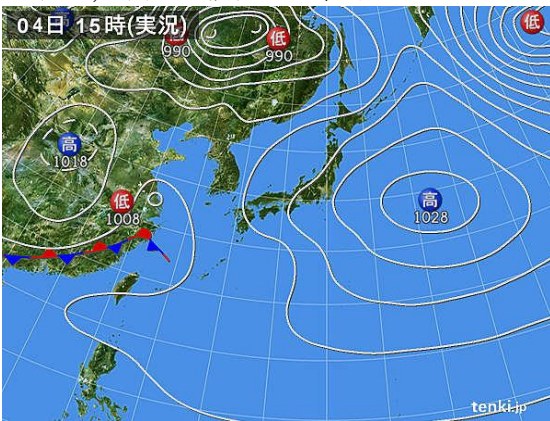
(気象)



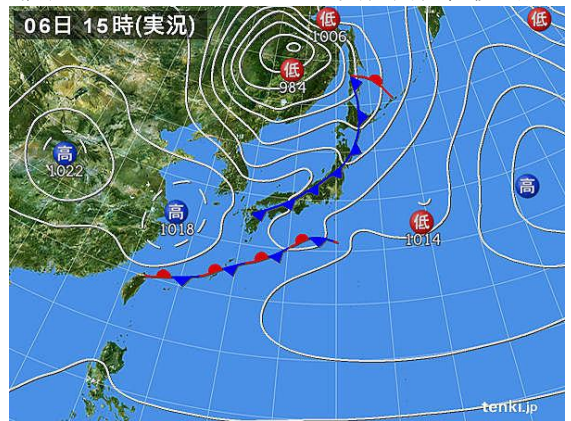
(入山日, 上高地～涸沢) 快晴



(涸沢→サイテングラード→奥穂高岳往復)晴



(涸沢→北穂沢→北穂高岳往復) 快晴



(下山日, 涸沢→上高地) 雨

(河野)

(共同食)

- 5月1日夜 岩魚定食(徳沢小屋)
- 5月2日夜 おでん定食(徳沢小屋)
- 5月3日夜 水餃子鍋
- 5月4日朝 うどん
- 5月4日夜 チゲ鍋
- 5月5日朝 ラーメン
- 5月5日夜 鶏鍋
- 5月6日朝 梅粥

食事は今回合宿初参加の新人もいたの
で、メニューは私が決めて、買い出しを富
田、池本に担当してもらった。雪山のため
鍋を基本とした温かいものとし、雪中に保
存できるため肉類や野菜などをふんだんに
使った美味しい鍋料理を食べることができ
た。(須田)

(共同装備)

品名	個数
テントNo.24(エスパース4~5人用)	1
銀マット	2
コッヘルNo.9(丸5~6人用)	1
コンロ台	2
ガスコンロ	2
ガスボンベ	小4
ツェルト	1
無線機	2
細引き(8mm20m)	1
ラジオ	1
ランタン	1
会旗	1
ビーコン・プローブ・スコップ	3

(装備: 須田)